

和服着装に関する研究 (第2報)

——年末年始における和服の利用について——

豊田幸子・山本寿子

A Study on the Dressing of Japanese Style Clothes (II)

— Use of Japanese Style Clothes from the End of the Year to the New Year —

Sachiko TOYODA and Hisako YAMAMOTO

緒 言

和服は日本の気候風土のもとで、先人による長い生活や慣習の中から築き上げられ、今日まで伝承されてきた民族衣裳である。しかし、生活の洋風化や合理化等による私達のライフスタイルの中で、和服の着装も日常着から儀式や趣味的な着用へと変化している。このような流れの中で、伝統衣裳として、現代生活に適した和服の着用形態について考察し、教育に生かしていきたいと考える。

前報¹⁾では、定着されつつある若年層の“浴衣ブーム”の中での女子大生の浴衣と帯の着装及び調製の方法、さらに和服の着装を簡便にする付け帯についての着用状況と構成についてのアンケート調査の結果についての考察を報告した。

引き続き本報では、女子大生の年末年始における和服の利用についてアンケート調査を行い、実態を明らかにして検討したので報告する。

方 法

調査対象は名古屋女子大学家政学部家政学科及び短期大学部生活学科、栄養科の学生800名である。さらにこの時期には成人式の行事が行われるので、学年別の検討をするために1年生391名、2年生409名の約半数ずつとした。

調査内容の項目は、年末年始における和服着用の有無と回数及び和服を着用しなかった理由、さらに和服の種類と着付者及び着用の機会とし、付け帯の半幅帯と名古屋帯、袋帯についてはその構成を図示し、回答させた。

調査時期は1994年1月下旬である。アンケートは質問紙法による集合調査法で行った。

結果及び考察

1. 年末年始における和服の着用状況

1993年の年末から1994年の年始にかけての和服の着用状況を図1に示す。800名の全体では和服を着用した学生が50%であり、着用しなかった学生50%と半数ずつであった。前報¹⁾の浴

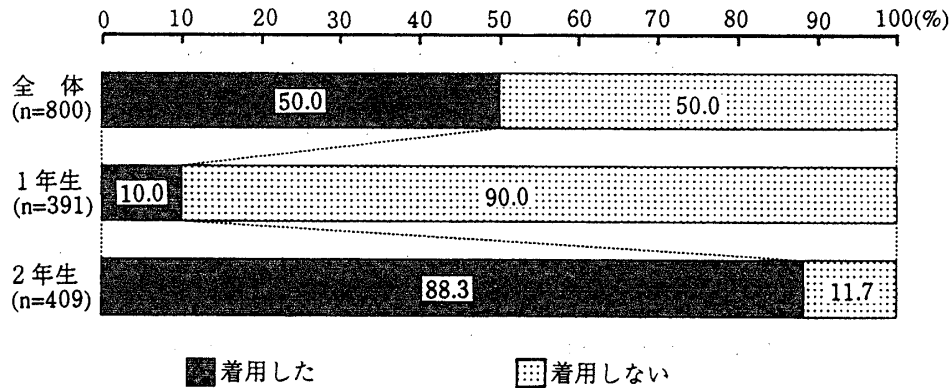


図1 年末年始における和服の着用状況

衣の着用では着用したが約43%であり、今回の方が着用した学生は7%多かった。学年別にみると、1年生391名では着用したが10%、着用しなかったが90%と着用者は少ない。2年生では着用したが88.3%と多く、着用しないが11.7%であり1年生と反比例の結果であるが、これは2年生は成人式があり、ここでの和服着用のために約88%と高率を示したと思われる。

和服の着用回数を図2に示す。着用者全体の400名では1回が55.3%と最も多く、2回が37.5%、3回が6%、4回0.7%、5回0.25%、6回0.25%の順で6回までの着装がみられた。学年別においても同様の傾向がみられた。前報¹⁾での浴衣の着用回数と比較すると、浴衣では1回64%、2回25.5%で、1回の着用が多かったが、年末年始の和服の着用は1回55.3%、2回37.5%と2回の着用が浴衣の場合よりも12%多くみられた。

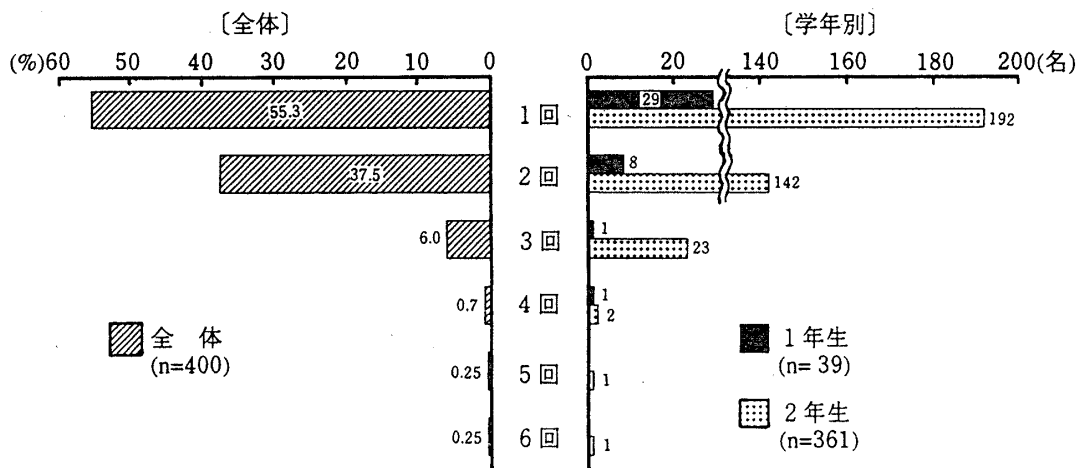


図2 和服の着用回数

次に年末年始において和服を着用しなかった学生に理由を複数回答させた結果を図3に示す。400名の回答者全体では、“着る必要性がない”が47.5%と最も多く、次いで“持ち合せの着物がない”が37.8%、“着物の着付ができないから”が13.3%、“着物では動きにくいから”が10.5%、“着物より洋服が好きだから”が5%、“忙しくて着る時間がなかった”が4%、“着物を着るのが面倒だ”が1.3%、“着るためにお金がかかる”が1%、“喪中で出かけられなかった”が0.5%みられた。学年別においても、1年生352名、2年生48名と差があるのでグラフは人数で表したが、ほぼ同傾向の順位であった。現代の生活では和服でなければ出席でき

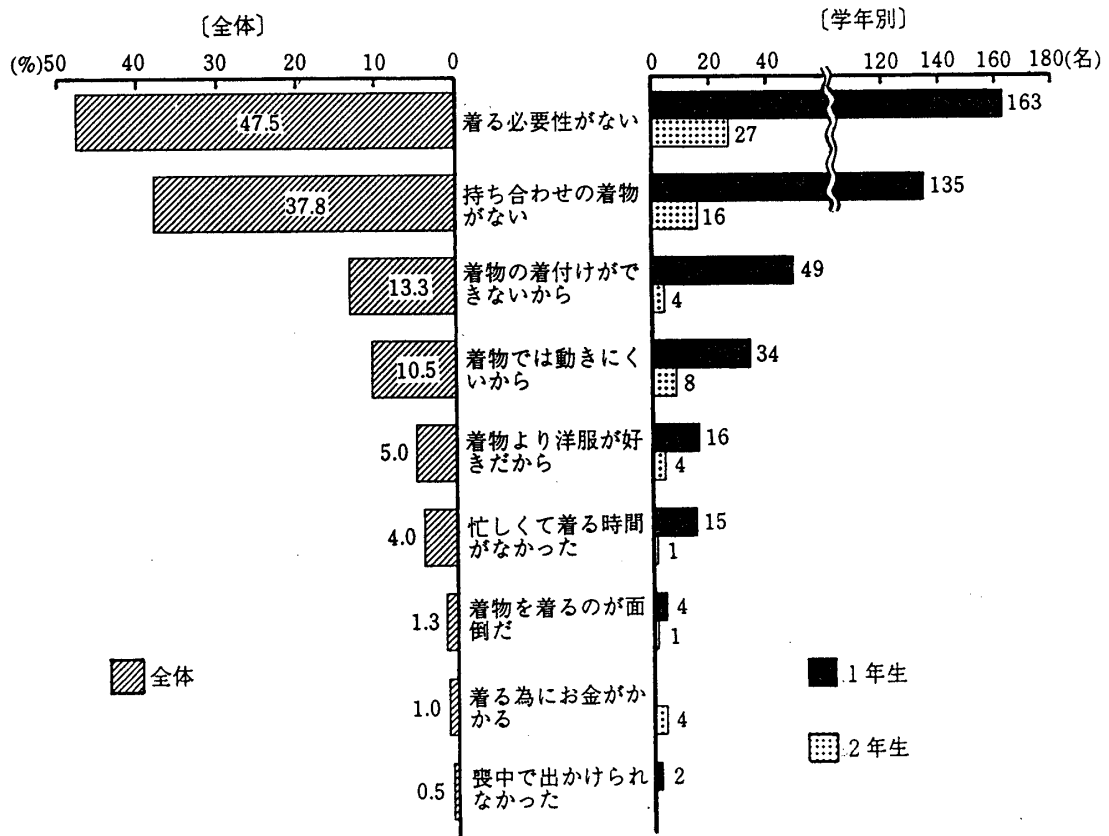


図3 年末年始において和服を着用しなかった理由 (複数回答)

ない場所の状況はありえないので、“着る必要性がない”が約48%と半数近い値であった。また女子大生という若年層でもあり、“持ち合わせの着物がない”が約38%や“着物の着付けができないから”が13.3%，“着物では動きにくいから”10.5%というような理由の出現がみられたと思われる。

2. 和服の種類

(1) 着物の種類

着用された和服の種類のうち、着物の種類について図4に示す。和服を着用した400名の学生の着物の種類は10種類の633点あり、1年生は58点、2年生は575点であった。全体では“振袖”が85.9%と最も多く、次いでわずかずつであるが“ウール”3.2%，“小紋”2.9%，“訪問着”2.7%，“付け下げ”1.6%，“色無地”0.5%，“紬”0.5%がみられた。また長着の上に着るものとしての“羽織”1.4%，“コート”1.1%，“袴”0.3%がみられた。学年別でも、1・2年生共にそれぞれ第1位は振袖であり、第2位以降も大差はみられなかった。

(2) 帯の種類

帯の種類について図5に示す。和服を着用した400名の学生が着用した帯の種類は4種類の616点あり、1年生は52点、2年生は564点であった。全体では、着物の種類で一番多かった振袖などに合せた“袋帯”が93.7%と最も多く、次いで“半幅帯”3.4%，“名古屋帯”2.4%，“付け帯”0.5%の順であった。学年別においても、1・2年生共に同傾向であったが、1年生には付け帯の着用が見られなかった。

(3) 着物と帯の組み合わせ

前述した着物の10種類のうち、“コート”や“羽織”、“袴”などはこれのみの着装はありえ

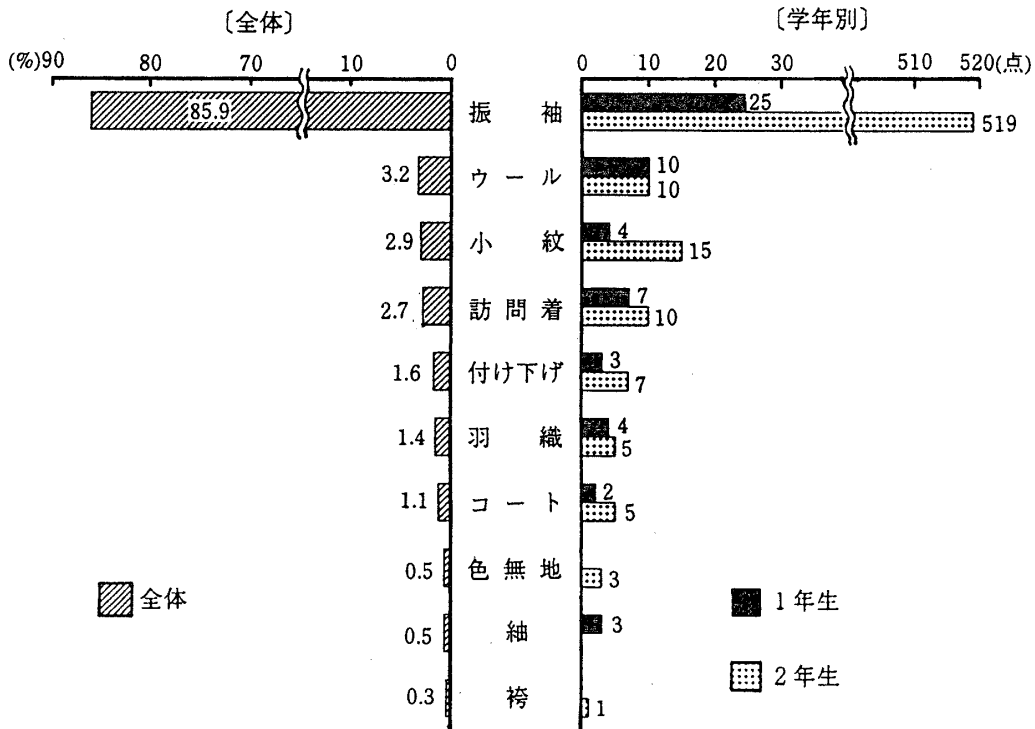


図4 着物の種類

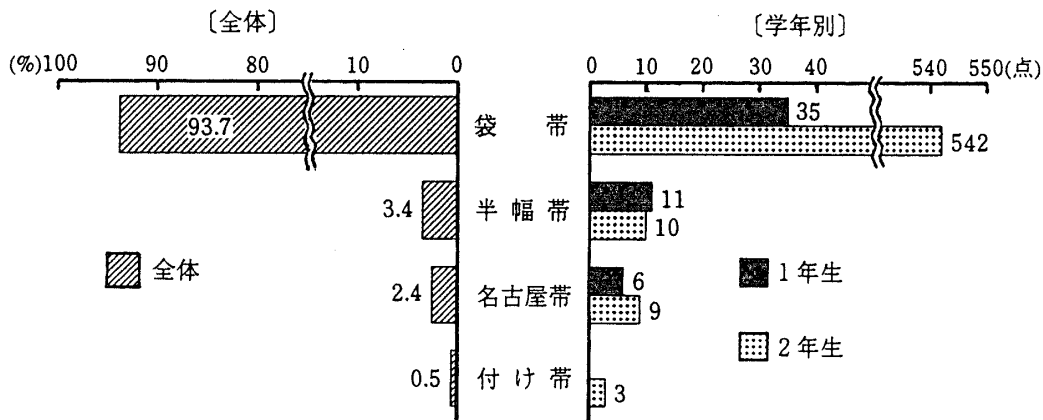


図5 帯の種類

ないので、それぞれの着物と組み合わせて着装されていた。和服着用者全体での7点の“コート”は振袖に3点と訪問着に4点組み合わせていたが、コートは訪問先では必ず脱ぐものであるので、着装形態としては独立せずに振袖のみの着装や訪問着のみの着装と合計した。さらに9点の“羽織”は紬に2点とウールに7点が着装されていた。これらはアンサンブルとして独立した着装形態もあるので、それぞれ独立させた。1点の“袴”は色無地と組み合わせていた。以上の結果、10種の着装形態がみられた。着用者全体において、これらの着装形態にどの帯を組み合わせて着装したのかをクロス集計した結果を表1に示す。着物の10種の着装形態と4種類の帯の組み合わせは20形態みられた。“振袖と袋帯”の組み合わせが544点の88.2%と最も多く、次いで“訪問着と袋帯”が14点の2.3%，“ウールと半幅帯”10点の1.6%，“小紋と袋帯”9点の1.5%，“付け下げと袋帯”7点の1.1%，“小紋と名古屋帯”7点の1.1%，“ウールと羽織に半幅帯”6点の

0.9%などが7位までにみられた。女子大生という若年層のため、振袖や訪問着に袋帯というフォーマルなものとうールと半幅帯というカジュアルなものに集中しており、色無地とか紬等のやや趣味的な着物との組み合わせは少ない傾向であった。

付け帯は“小紋と付け帯”に2点，“うールと羽織と付け帯”に1点の組み合わせの形態がみられた。

また、以上の和服類がレンタルの場合を回答させた結果、振袖と袋帯にみられた。振袖は544点のうちレンタル26点でレンタル率は4.8%であり、袋帯は577点のうちレンタル23点でレンタル率は4%であった。福井県のなかむらグループが実施した「成人式アンケート」²⁾によると196人のうちレンタルした人は29%と発表されているので、調査人数の差はあるが、名古屋女子大学の学生ではレンタルがやや低率であったと考えられる。

表1 着物と帯の組み合わせ

点 (%)						
着物	帯	袋帯	名古屋帯	半幅帯	付け帯	計
振袖 (+コート)		544 (88.2)	—	—	—	544 (88.2)
訪問着 (+コート)		14 (2.3)	3 (0.5)	—	—	17 (2.8)
色無地		1 (0.2)	1 (0.2)	—	—	2 (0.4)
色無地+袴		—	—	1 (0.2)	—	1 (0.2)
付け下げ		7 (1.1)	2 (0.3)	1 (0.2)	—	10 (1.6)
小紋		9 (1.5)	7 (1.1)	1 (0.2)	2 (0.3)	19 (3.1)
紬		1 (0.2)	—	—	—	1 (0.2)
紬+羽織		—	—	2 (0.3)	—	2 (0.3)
うール		1 (0.2)	2 (0.3)	10 (1.6)	—	13 (2.1)
うール+羽織		—	—	6 (0.9)	1 (0.2)	7 (1.1)
計		577 (93.7)	15 (2.4)	21 (3.4)	3 (0.5)	616 (100)

3. 和服の着付者

前述の着物と帯の着装616点の着付者を図6に示す。全体では11種の着付者がみられ、ある1点の着装に母と祖母の2名で着付をした場合がみられたので総数は617件であった。そのうち1年生は53件、2年生は564件であった。全体では“美容院”64.2%，“母”14.1%，“呉服屋”

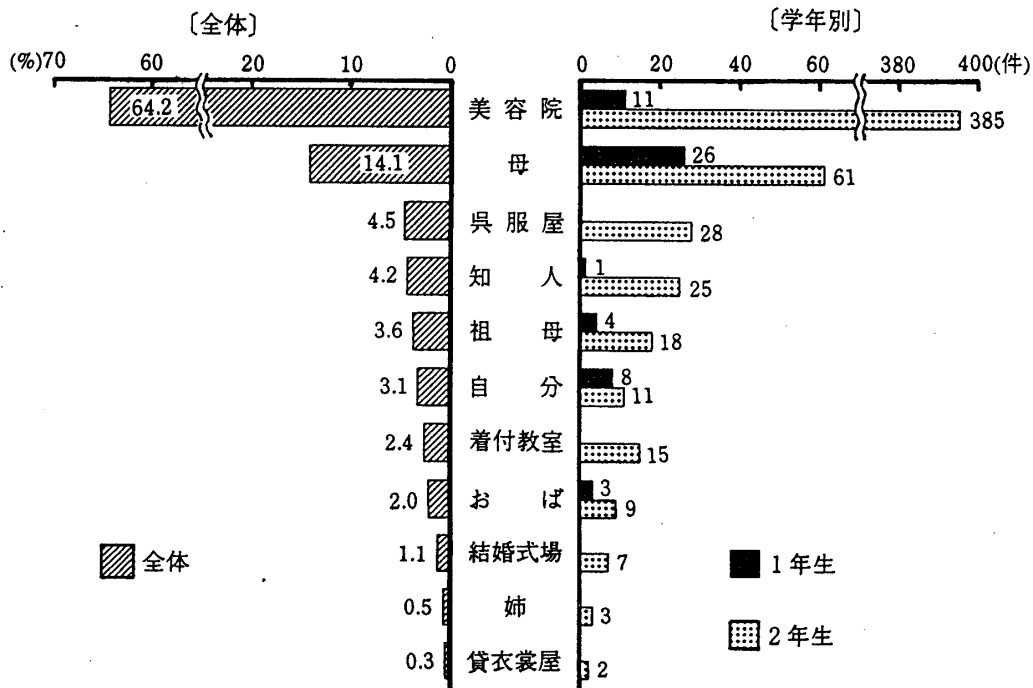


図6 和服の着付者

4.5%，“知人”4.2%，“祖母”3.6%，“自分”3.1%，“着付教室”2.4%，“おば”2%，“結婚式場”1.1%，“姉”0.5%，“貸衣裳屋”0.3%の順にみられた。学年別では，2年生は全体と同傾向であった。1年生では，総件数も2年生の約10分の1とわずかであり，“母”が26件と一番多く，次いで“美容院”11件，“自分”8件，“祖母”4件，“おば”3件，“知人”1件の6種のみしかみられなかった。

前述の着物と帯の組み合わせ20形態と着付者11種をクロス集計した結果を表2に示す。着装形態は“振袖と袋帯”87.7%に集中しており，その着付けに“美容院”62.6%が最も多く，次いで“母”7.6%，“呉服屋”4.5%，“知人”3.9%，“祖母”2.8%，“着付教室”2.3%等の順に上位にみられ，このようなフォーマルな服種の場合は“自分”は0.8%と少なかった。次に着付者が扱った着装形態は母親が14種と最も多く，“振袖と袋帯”7.6%，“訪問着と袋帯”1.3%，“ウールと半幅帯”1%等が上位にみられた。次いで自分が8種と“振袖と袋帯”0.8%，“ウールと半幅帯”0.6%，“小紋と名古屋帯”0.5%等が上位であった。次いで美容院6種，祖母5種，知人とおばが3種ずつの順にみられ，母親や自分で着付けの出来る着装形態の種類が美容院より多い結果であった。

表2 和服の着用形態とその着付者

着用形態	着付者											計
	美容院	母	呉服屋	知人	祖母	自分	着付教室	おば	結婚式場	姉	貸衣裳屋	
振袖(+コート)	386	47	28	24	17	5	14	10	7	3	1	542
袋帯	(62.6)	(7.6)	(4.5)	(3.9)	(2.8)	(0.8)	(2.3)	(1.6)	(1.1)	(0.5)	(0.2)	(87.7)
訪問着(+コート)	3	8	—	1	1	—	1	—	—	—	—	14
袋帯	(0.5)	(1.3)	—	(0.2)	(0.2)	—	(0.2)	—	—	—	—	(2.2)
訪問着(+コート)	—	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3
名古屋帯	—	(0.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.5)
色無地	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
袋帯	—	(0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.2)
色無地	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1
名古屋帯	—	—	—	—	—	(0.2)	—	—	—	—	—	(0.2)
色無地+袴	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
半幅帯	(0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.2)
付け下げ	2	4	—	1	—	—	—	—	—	—	—	7
袋帯	(0.3)	(0.6)	—	(0.2)	—	—	—	—	—	—	—	(1.1)
付け下げ	—	1	—	—	—	—	—	1	—	—	—	2
名古屋帯	—	(0.2)	—	—	—	—	—	(0.2)	—	—	—	(0.3)
付け下げ	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
半幅帯	—	(0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.2)
小紋	3	5	—	—	2	—	—	—	—	—	—	10
袋帯	(0.5)	(0.8)	—	—	(0.3)	—	—	—	—	—	—	(1.6)
小紋	1	2	—	—	—	3	—	—	—	—	1	7
名古屋帯	(0.2)	(0.3)	—	—	—	(0.5)	—	—	—	—	(0.2)	(1.1)
小紋	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1
半幅帯	—	—	—	—	—	(0.2)	—	—	—	—	—	(0.2)
小紋	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	2
付け帯	—	—	—	—	—	(0.3)	—	—	—	—	—	(0.3)
紬	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
袋帯	—	(0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.2)
紬+羽織	—	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2
半幅帯	—	(0.3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.3)
ウール	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1
袋帯	—	(0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(0.2)
ウール	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	2
名古屋帯	—	—	—	—	—	(0.3)	—	—	—	—	—	(0.3)
ウール	—	6	—	—	1	4	—	1	—	—	—	12
半幅帯	—	(1.0)	—	—	(0.2)	(0.6)	—	(0.2)	—	—	—	(2.0)
ウール+羽織	—	5	—	—	—	1	—	—	—	—	—	6
半幅帯	—	(0.8)	—	—	—	(0.2)	—	—	—	—	—	(1.0)
ウール+羽織	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1
付け帯	—	—	—	—	(0.2)	—	—	—	—	—	—	(0.2)
計	396	87	28	26	22	19	15	12	7	3	2	617
	(64.2)	(14.1)	(4.5)	(4.2)	(3.6)	(3.1)	(2.4)	(2.0)	(1.1)	(0.5)	(0.3)	(100)

4. 和服着用の機会

年末年始における和服着用の機会を図7に示す。和服を着用した400名の学生における和服着用の機会は648件あり、12の場面がみられた。そのうち1年生では55件、2年生593件であった。全体での上位6位までをみると、第1位は“成人式”が52.6%と約半数を示した。次いで“初詣”16.2%，“年始の挨拶”9.7%，“家族・親族の集まり”8.7%，“成人式の写真撮影”5.6%，“お茶会”2.9%の順で、新年としての行事が多くみられた。学年別にみると、2年生は全体と同傾向の順位であった。1年生は、“成人式”がないので“初詣”と“家族・親族の集まり”が同じ20件ずつで一番多く、次いで“年始の挨拶”4件，“お茶会”と“演奏会”が同じ3件ずつと上位にみられた。

次にこのような和服着用の機会にはどのような和服着装形態なのかをみるためにクロス集計した結果を表3に示す。着装形態は“振袖と袋帯”に約89%と集中しており、これでの着用の機会は“成人式”が52.3%と最も多く、次いで“初詣”13%，“年始の挨拶”8.6%，“家族・親族の集まり”5.9%，“成人式の写真撮影”5.6%等の新年の行事が上位にみられた。次に着用の機会別に着装形態をみると，“家族・親族の集まり”において“振袖と袋帯”や“訪問着と名古屋帯”等のフォーマルなものから“ウールと羽織に半幅帯”などのカジュアルまで13種の着装形態がみられて一番多く、次いで“初詣”に10種，“年始の挨拶”では7種，“お茶会”

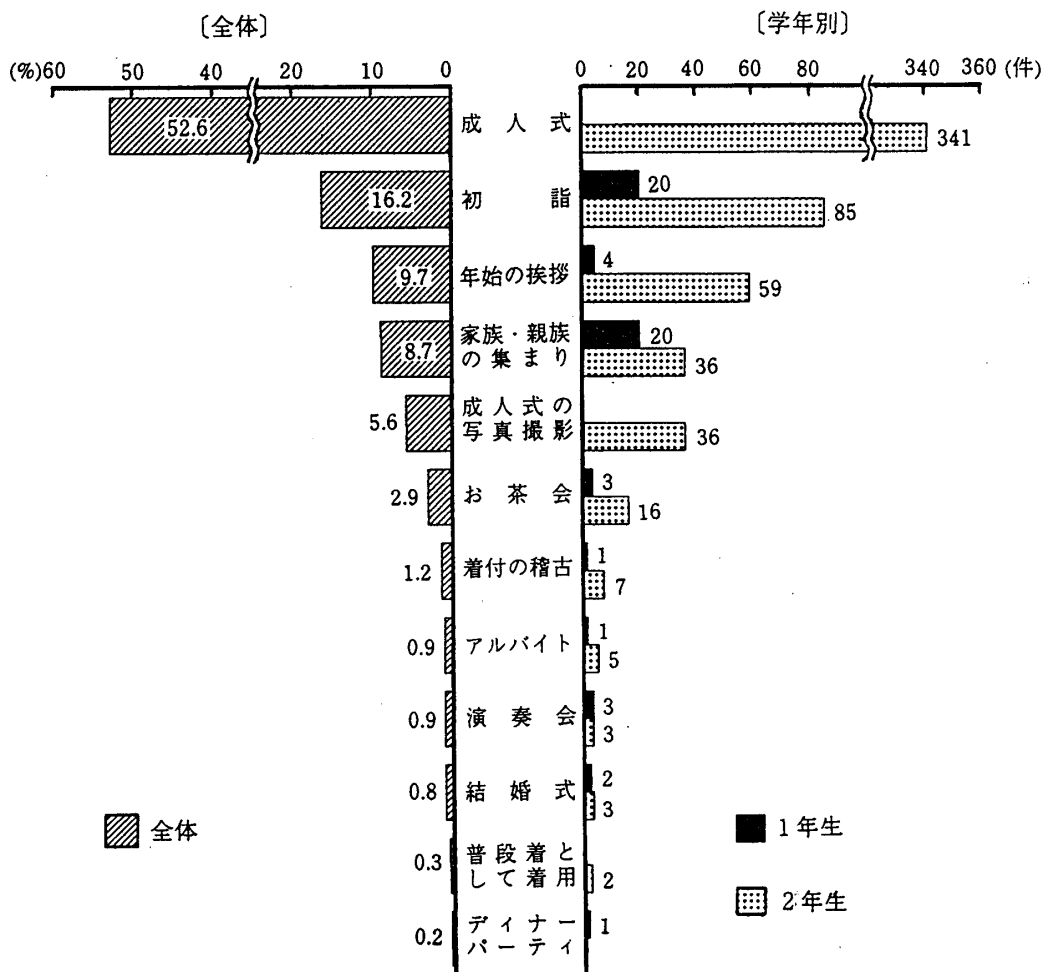


図7 和服着用の機会

表3 和服の着用形態と着用機会

着用形態	件 (%)												
	着用機会	成人式	初詣	年始の挨拶	の家族・親族	写真人撮式影の	お茶会	着付の稽古	アルバイト	演奏会	結婚式	と普して段着用	パーティタイラー
振袖(+コート)袋帯	339 (52.3)	84 (13.0)	56 (8.6)	38 (5.9)	36 (5.6)	8 (1.2)	5 (0.8)	3 (0.5)	1 (0.2)	5 (0.8)	—	1 (0.2)	576 (88.9)
訪問着(+コート)袋帯	1 (0.2)	6 (0.9)	1 (0.2)	1 (0.2)	—	3 (0.5)	1 (0.2)	—	1 (0.2)	—	—	—	14 (2.1)
訪問着名古屋帯	—	—	—	2 (0.3)	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	—	3 (0.5)
色無地袋帯	—	—	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (0.2)
色無地名古屋帯	—	—	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (0.2)
色無地+袴半幅帯	1 (0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (0.2)
付け下げ袋帯	—	1 (0.2)	1 (0.2)	1 (0.2)	—	2 (0.3)	—	1 (0.2)	1 (0.2)	—	—	—	7 (1.0)
付け下げ名古屋帯	—	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	1 (0.2)	—	—	—	2 (0.3)
付け下げ半幅帯	—	—	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (0.2)
小紋袋帯	—	2 (0.3)	1 (0.2)	2 (0.3)	—	4 (0.6)	—	—	—	—	—	—	9 (1.3)
小紋名古屋帯	—	2 (0.3)	—	—	—	1 (0.2)	2 (0.3)	1 (0.2)	1 (0.2)	—	—	—	7 (1.0)
小紋半幅帯	—	—	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (0.2)
小紋付け帯	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	1 (0.2)	—	—	—	—	2 (0.3)
袖袋帯	—	—	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (0.2)
袖+羽織半幅帯	—	2 (0.3)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2 (0.3)
ウール袋帯	—	—	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (0.2)
ウール名古屋帯	—	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	1 (0.2)	—	—	—	2 (0.3)
ウール半幅帯	—	2 (0.3)	2 (0.3)	5 (0.8)	—	—	—	—	—	—	1 (0.2)	—	10 (1.5)
ウール+羽織半幅帯	—	4 (0.6)	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	—	1 (0.2)	—	6 (0.9)
ウール+羽織付け帯	—	1 (0.2)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1 (0.2)
計	341 (52.8)	105 (16.2)	63 (9.7)	56 (8.6)	36 (5.6)	19 (3.0)	8 (1.2)	6 (0.9)	6 (0.9)	5 (0.8)	2 (0.3)	1 (0.2)	648 (100)

や“演奏会”に6種等が上位にみられた。

付け帯の着用は，“初詣”の場合に“小紋と付け帯”1件，“ウールと羽織に付け帯”1件の着装形態がみられたものと，“アルバイト”の場合に“小紋と付け帯”で1件みられた。

5. 付け帯の種類

年末年始における付け帯の着装は2年生に3名あった。付け帯については帯の種類と縫製及び構成について回答させた。その結果、帯の種類は“袋帯”，“名古屋帯”，“半幅帯”のうち3名共に名古屋帯であった。縫製については手製か注成品（購入した店で付け帯に仕立ててもらった）あるいは既製品のうちで全員が既製品であった。名古屋帯の付け帯の構成形態は自分たちのこれまでの研究³⁾や市場調査の結果、図8に示すように“a. 手つきの胴とお太鼓”，“b. 胴と手つきのお太鼓”，“c. 胴と結びつけ太鼓”，“d. 作りつけお太鼓結び”にまとめられると考える。付け帯着用者3名ではb, c, dの構成にそれぞれ1名ずつあった。

最近の市場では、既製品の付け帯が色々と常時店頭に置かれる事は少なく、喪服用の付け帯が常備されている程度となっている。名古屋帯の付け帯は夏の浴衣の時期に半幅帯の付け帯と

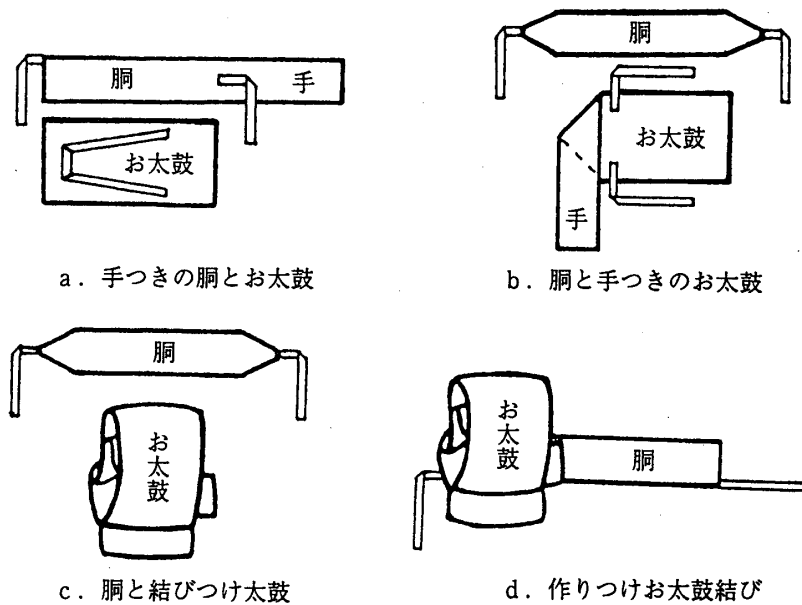


図8 付け帯の構成の種類

一緒にみられる所もあるが、その他の季節には常備されることは少なく、注文品として7千円～1万1千円位の仕立代で扱われている事が多い。また既製品の付け帯の構成は、図8のaやbのように平面の結ばない状態で持ちこびしたり、収納できるコンパクトな製品が多くみられる。今回学生が使用している付け帯のうち、dの構成は最近の既製品ではほとんどみかけないものであるが、アルバイト先で着用しているので制服として特別に製作されたものか、母親や祖母からゆずりうけたりしたものとも考えられる。

要 約

女子大生の年末年始における和服の着用状況、着用の機会、種類及び着付の方法、さらに付け帯の利用についての実態を探ることを目的としてアンケート調査を行い検討した結果、次のことが把握できた。

1. 和服の着用状況では、和服を着用した学生は全体で50%と半数にみられた。学年別にみると、1年生では着用したが10%、着用なしが90%であった。2年生は着用したが88.3%、着用なしが11.7%と1年生と反比例の結果であった。

和服を着用しなかった理由は“着る必要性がない”が約48%と最も多く、若年層らしく“持ち合せのきものがない”が約38%や“着物の着付ができないから”が約13%、“着物では動きにくいから”10.5%等がみられた。

2. 着用した和服の種類では、着物10種類と帯4種類がみられ、これらの着物と帯を組み合わせた着用形態は20形態みられた。最も多かった組み合わせは“振袖と袋帯”88.2%で、次いで“訪問着と袋帯”2.3%や“ウールと半幅帯”1.6%などがわずかずみられた。

3. 和服の着付者は11種みられ、“振袖と袋帯”の着用率が多いので“美容院”が64.2%と最も多かったが、着付者が扱った和服の種類(着装形態)は“母親”が14種と最も多く、次いで“自分”8種、“美容院”6種、“祖母”5種の順であった。

4. 和服着用の機会は12の場面がみられ、“成人式”が約53%と最も多く、次いで“初詣”約16%、

“年始の挨拶” 9.7%，“家族・親族の集まり” 8.7%等が上位にみられた。着用の機会別に和服の着装形態をみると，“家族・親族の集まり”において“振袖と袋帯”などのフォーマルなものから“ウールと羽織に半幅帯”などのカジュアルまで13種の着装形態がみられ、次いで“初詣”に10種，“年始の挨拶”では7種の順に多くみられた。

5. 付け帯の種類は名古屋帯の利用が3名あった。構成の形態は“胴と手つきのお太鼓の形式”1点と“胴と結びつけたお太鼓の形式”1点，“作りつけお太鼓結び”1点であった。

以上の結果，女子大生における年末年始の和服の利用についての把握ができた。今後さらに市場の動向も探り，被服教育への検討を深めたい。

参 考 文 献

- 1) 豊田幸子，山本寿子：名古屋女子大学紀要 家政・自然編，40，15～22 (1994)
- 2) 染織新報社：そめとおり，3月号，48～49 (1994)
- 3) 豊田幸子，安藤たか子：日本服飾学会誌，11，183～190 (1992)
- 4) 日本繊維新聞社：きものビジネス，春号，134～137，141 (1994)